

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第5部門第2区分

【発行日】令和2年9月3日(2020.9.3)

【公開番号】特開2019-44794(P2019-44794A)

【公開日】平成31年3月22日(2019.3.22)

【年通号数】公開・登録公報2019-011

【出願番号】特願2017-165300(P2017-165300)

【国際特許分類】

F 16 H 45/02 (2006.01)

F 16 F 15/134 (2006.01)

F 16 F 15/139 (2006.01)

【F I】

F 16 H	45/02	Y
--------	-------	---

F 16 F	15/134	B
--------	--------	---

F 16 F	15/134	A
--------	--------	---

F 16 F	15/139	B
--------	--------	---

【手続補正書】

【提出日】令和2年7月21日(2020.7.21)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0008

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0008】

この構成によれば、摩擦発生機構によってピストンにヒステリシストルクが発生するため、ピストンの共振を防止することができる。

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0052

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0052】

シールリング82は、環状であり、環状溝81内に配置されている。シールリング82は、この環状溝81内において、軸方向に移動可能に配置されている。シールリング82の外周面823は、外殻の外周壁部110の内周面と当接している。すなわち、シールリング82の外径は、外周壁部110の内径と略等しい。このため、シールリング82が軸方向に移動するとき、シールリング82は外周壁部110の内周面上を摺動する。なお、本実施形態では、シールリング82の外周面823は、インペラ3の筒状部10bの内周面と当接している。

【手続補正3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0061

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0061】

次に、ロックアップ装置7の回転数が所定値以上になると、ロックアップ装置7がオン

状態となり、ピストン 3_2 がタービン 4 と摩擦係合する。この結果、エンジンからフロントカバー 2 に入力されたトルクは、ダンパ機構 3_3、ピストン 3_2、タービン 4 を介して、トランスミッションの入力軸へと出力される。